



青垣

第 51 号

平成二十七年一月一日発行

奈良県橿原市久米町九三四

奈良県神社庁内

発行所 奈良県神道青年会

電話〇七四四一三三四七三

編集者 広報 報 部



祝祭日には
国旗を
掲げましょう

会長挨拶

大神神社権禰宜 大月 智

昭和三十九年八月十六日に産声を上げた本会は五十歳となり、記念大会を平成二十六年九月二十五日に賑々しく挙行することができました。ご出席並ご協力賜りました皆様に対し、改めて衷心より厚く御礼申し上げます。

四月二十八日に奈良県神社庁神殿にて五十周年奉告祭、併せて東日本大震災紀伊半島大水害復興祈願祭を斎行しましたが、その折りご神前に奈良県の銘酒二升をお供えし、日夜復旧復興への諸活動に尽力され創立六十五周年式典を控えていた福島県神道青年会の皆様へ、日々のご労苦を此かでも労うことができればと、勝手ながらお贈りさせて頂きました。そして本会の五十周年記念大会へ遙々福島県より大森会長が足を運ばれ、お話をさせて頂くことができました。共に面識のない間柄ながらも、神職にしか為せない「祈り」を通じて心の連繋を図ることができたのは、私にとって無上の喜びでありました。

神道青年会は本来、会議や懇親ばかりに労力を傾注

古人の跡を求めず、
古人の求めたるところを求めよ
松尾芭蕉『許六離別詞』

するものではありません。「敬神生活の綱領」を規範とし、神事を最優先し、諸団体との交流を活発にし、自身を律し互いを尊重しあうものと考えます。この一年間、五十周年活動に加え両陛下奉送迎活動、先述の復興祈願祭、橿原神宮仮殿遷座祭助勤奉仕や天理教本部参拝交流、救急救命講習受講など多様な活動を展開して参りました。私の会長としての任期二年はあと数カ月で終わります。会長が会務の足を引っ張ることが無いよう努めたつもりではありますが、振り返りましても、より積極的に挑戦的な活動ができたはずと反省し、且つ不手際や稚拙な事柄ばかりで、各方面へご迷惑ご心配をお掛けしたと申し訳なく存じます。この青年会活動によって私自身大きく成長させて頂きました。次年度以降役員の皆さまには、誰かから与えられるものを受受するだけではなく与える側として会員を引率して頂きたく、又会員の皆様は積極的に諸活動へご参加頂き多くのものを習得して頂きたいと願っています。今回五十年の節目を経ましたが、次の節目を麗しく迎えるためには、日々活動を充実させ積み重ねていくより他無いと感じております。

末筆ながら関係諸賢には何卒今後とも本会へご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせて頂きます。

五十周年経過報告

奈良県神道青年会は昭和三十九年八月十六日に結成されました。平成二十六年で五十周年の佳節を迎えるにあたり、先輩諸兄の功績を顕彰し、その精神を引き継ぎ、また今の時代にも沿った左記の記念事業を計画致しました。

- 創立五十周年奉告祭併東日本大震災並紀伊半島大水害早期復興祈願祭の斎行
 - 第十回皇居勤労奉仕青垣奉仕団の実施
 - 神話紙芝居団「かたりべまほろば」新作制作と結成十周年記念公演
 - 記念大会の開催
 - 記念誌の発刊
 - 会報「青垣」合本作成
 - ホームページ作成
- はじめの三項目に関しましては、次頁以降に報告記事がありますので、ここでは割愛させていただきます。

記念大会は九月二十五日にホテル日航奈良にて開催され、全国各地より当会に関係が深い一、二八名が集まり開催されました。

記念式典では大月会長が式辞を述べ、奈良県神社庁長森正光様、神道青年全国協議会会長南坊城光興様、衆議院議員奥野信亮様よりご祝辞を賜り、第十八代会長湯澤義之先輩をはじめ一七名の先輩の功労表彰が行われ、五十周年を機に再録された音色に合わせ会歌を斉唱し、持田監事の先導にて声高らかに聖寿万歳を執り行い

記念大会は閉会しました。

つづいて場所を移して神話紙芝居団「かたりべまほろば」の新作「イザナギとイザナミ」が披露され、第十二代会長久保田昌孝先輩の乾杯の発声で祝宴は始まり、久しぶりに出会う同士のらで会場内は大いに盛り上がり、第十五代会長松本邦夫先輩の万歳三唱で盛会の裡に記念大会は終了しました。

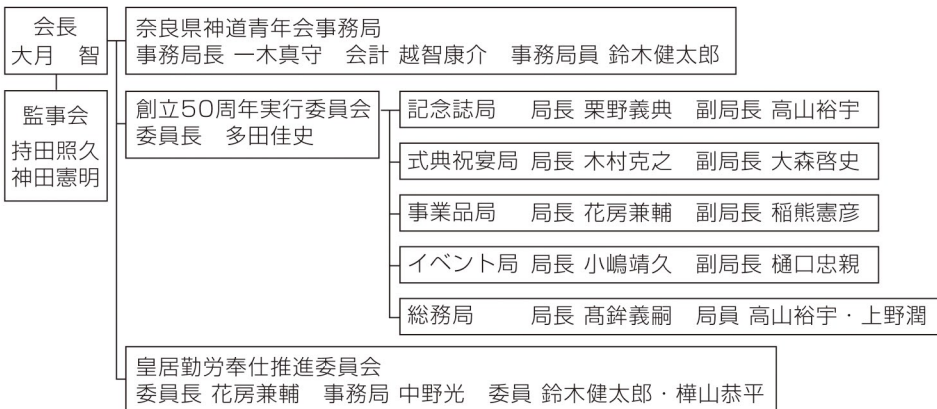


十二月現在は、残る記念誌の発刊、会報「青垣」合本の作成、今回の事業の目玉ともいえるホームページ作成に全力を注いでいるところであります。

この度、記念事業に際しまして、県内外の諸先輩方、関係業者の皆様、全国各地から記念大会に駆けつけてくれた神青協の皆様方から多大なる御祝儀・御協賛を賜り、洵に有り難く感謝申し上げます。先輩諸兄が行ってきた記念事業には及ばなかったかもしれませんが、会員一致団結し、お陰を持ちましてなんとか記念事業が完了しようとしております。

そして当会は次の六十周年へのスタートを切ったということになります。今後とも皆様方

奈良県神道青年会創立50周年記念事業組織図



の御指導御鞭撻をお願い申し上げます、記念事業の経過報告とさせていただきます。

(創立五十周年実行委員会委員長・多田)

記念事業主題「稽古照今」及び記念揮毫について

平成二十五年四月、現 大月会長以下執行部が発足してより早いもので、二年間の任期も残すところ数ヶ月となり月日の経過の早さに戸惑いを隠し得ません。

今期役員の内任期中の中心的事業となるのは、平成二十六年本会が創立五十周年を迎えるに当たり記念事業を推進していくことであったことから、先ず会長、実行委員長を中心として取り組んだことに本周年事業の方向性として「主題」を定めそして「趣旨」を纏めて、関係各位に対し協力を募り各種事業を展開していくという運びとなりました。

役員各位よりは、「建国の聖地」に因むもの、「国のまほろばと讃えられる大和の国」を全面に押し出し奈良県らしさを強調した良案が沢山出された中で、今回五十周年という大きな節目にあたり、当会発会に際してより尽力をなされ斯界の発展に寄与された多くの先輩方の努力を鑑み、更にはこの秋にあたり更なる当会の発展を誓うべく、また神話伝承の宝庫ともいわれる大和の国で神明奉仕に日々勤しむ我々に相応しく常に心に止め置くべき言葉として『古事記』序に記される「古を稽へて今に照らす」つまり「稽古照今」と全会一致で決定し、これにより各部署毎に事業を展開推進していくこととなりました。

ここで主題「稽古照今」と定めるに至った決め手となったこととして特筆させて頂くと、当

会は平成二十四年度神道青年近畿地区連絡協議会の当番県となり、丁度その年は『古事記』撰上一千三百年という嘉節にあたることから、『古事記』を主題にした各種研修会を開催。我々自身その内容の深き素晴らしさを再確認させて頂けたこと、また平成二十四年十月五日には奈良市此瀬町の太安萬侶御墓にて当会会員奉仕にて墓誌発見者竹西英夫様始め多くのご参列を得て墓前祭を執行させて頂いただけことが大きかったのではないかと思います。

実行委員会では、この「稽古照今」の主題を我々の記念事業の全面に出し、また我々の心に刻みそして後世へ永く留めていく為にと、当会の元理事であり『古事記』編纂者太安萬侶御より数えて五十一代目の直裔にあたられる多坐彌志理都比古神社宮司多忠記様にご揮毫をご依頼することとしました。

九月二十五日に控えた記念式典の前に、宮司様には突然のお願いにも関わらず我々の思

いを了とせられ、ご揮毫下されたのが左に掲げる文字であります。

今般ご揮毫いただいた書は、「記念式典の葉」の表紙として掲げさせて頂いたとき、ご参会皆様にご披露申し上げたほか、事業品にも転記させて頂いたいただきました。また現在編集中心である『五十周年記念誌』（仮称）の標題にも掲載させて頂いたたく予定でありますので、皆様方におかれましては奈良県神道青年会のこれまでの歩みと「稽古照今」の心をもって将来に進んで行く姿にご期待を頂きご覧頂ければ幸甚であります。

多宮司様におかれましては、流麗なるご揮毫を賜りましたこと厚く御礼申し上げますとともに、当会もこの筆跡に恥じず、先輩諸賢の功績を鏡として相互研鑽に励み決意を新たに活動に邁進して参ります。

（総務局記念誌局・高山）

稽古照今

創立五十周年奉告祭並東日本大震災紀伊半島大水害早期復興祈願祭



平成二十六年四月二十八日、奈良県神社庁神殿にて「当会創立五十周年奉告祭並東日本大震災・紀伊半島大水害早期復興祈願祭」が斎主は大月会長、祭員は上野・大森両理事、伶人は多田副会長、高銚・越智両理事の奉仕により斎行され、御多忙の中、森庁長様、中川参事様に参列を戴きました。

祝詞では、神社庁の神殿に鎮まる県内一三〇六社の神々に東日本大震災・紀伊半島大水害早期復興と、諸先輩方が築かれた当会五十

年の活動の報告、また創立五十周年事業の成功を祈願致しました。

尚、神饌は、被災地の物を御供えする事となり、当会春日大社鈴木理事（宮城県出身）に米・酒を、檀原神宮上野理事（和歌山県出身）に魚・野菜・果物を手配して戴きました。また、奈良の地酒も併せて御供えし、後日開催される福島神道青年会創立六十五周年記念大会へ祝意と共にお贈りしました。



また、神饌の調達の際、熊野速玉大社の上野顯宮司様が、直接奈良まで御供えする神饌を持参され、その際当会会員に向けて「和歌山の災害の復興支援活動に来てくれた事に感謝し、その御礼の為に是非とも持参したかった。この事は生涯忘れることはない」と逆に感謝の言葉を戴き、斯界の尖兵としての神青の役割を今一度心に刻み、より一層精進しなければならぬと思いました。

(檀原・高鋒)

平成二十六年定例総会

「奈良県神道青年会創立五十周年奉告祭併東日本大震災並紀伊半島大水害早期復興祈願祭」に引き続き、奈良県神社庁に於いて平成二十六年定例総会が奈良県神社庁長森正光様、同参事 中川行夫様ご臨席のもと、会員二十五名の出席で開催された。

平成二十五年度の活動報告と決算報告、平成二十六年年度の活動計画と予算案が承認され、本年五十周年を迎える当会の記念事業計画が報告された。

総会後、檀原観光ホテルにて懇親会が開催された。中川行夫様の乾杯の発声で始まり、互いに親睦を深め、心をひとつに五十周年のスタートを切った。

(副会長・多田)



青垣奉仕団報告

陛下より紀伊半島大水害について
お言葉を賜る

此度、奈良県神道青年会が創立五十周年を迎えるに当たり、記念事業として第十回皇居勤労奉仕青垣奉仕団を実施致しました。当会会員、この事業に御理解と御賛同頂きました神社関係者、崇敬者の皆様、計二十七名にて勤労奉仕に臨みました。私個人としては、前回に引き続き二回目の参加でしたが、今回印象に残っていることの一つに若者の多さがあります。奉仕者全体で二百名程でしたがその内七割近くが大学生でした。平均年齢でみると青垣奉仕団が飛び抜けて高く、奉仕中なにかと若い力を借りることがあり、この若者達にとって勤労奉仕が人生において良い糧になることを祈らずにはおれませんでした。

奉仕二日目には、天皇皇后両陛下の御会釈を賜りました。

天皇陛下より二週間前に起きた広島の大水害に関連付けられ三年前の紀伊半島大水害についてお言葉を賜り、団員一同感激致しました。三日目には赤坂御用地にて、皇太子殿下の御会釈を賜り、大月団長の発声で万歳三唱をすることができました。



今回は、移動日である初日は雨に降られましたが、奉仕日は大きな天気の影響もなく、気温も危険な程は上がりず団員が皆無事に奉仕を終えることができ有り難く思います。また、今回で勤労奉仕が最期を迎えられました方には、ここに紙面をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

(皇居勤労奉仕推進委員会委員長・花房)





奈良県神道青年会青垣奉仕団
団員名簿

団 長 大月 智	団 員 竹永 昌代
副団長 花房 兼輔	団 員 丹治 千鶴子
団 員 安達 武一	団 員 中辻 信江
団 員 安達 由美子	団 員 中野 光
団 員 上野 潤	団 員 西嶋 元子
団 員 大石 渚	団 員 西田 恭子
団 員 檜根 叔子	団 員 橋本 洋子
団 員 金子 清作	団 員 長谷川 亜希
団 員 樺山 恭平	団 員 持田 照久
団 員 木島 敬博	団 員 森口 孝
団 員 栗本 里子	団 員 吉岡 隆彦
団 員 島 芙美子	団 員 和田 孝範
団 員 鈴木 健太郎	

青垣奉仕団日程表

1日目	11:35 京都駅発 13:53 東京駅着	靖国神社着 記念撮影 14:30 靖国神社正式参拝 15:00 遊就館見学 18:00 宿舎着 19:00 夕食 (オリエンテーション) 入浴・就寝
9月1日 (月)		
2日目	8:00 皇居 (赤坂御用地) 着 8:30 皇居 (赤坂御用地) 勤労奉仕	16:30 宿舎着 18:00 夕食 入浴・就寝
9月2日 (火)		
3日目	8:00 皇居 (赤坂御用地) 着 8:30 皇居 (赤坂御用地) 勤労奉仕	天皇皇后両陛下より ご会釈を賜る 16:30 宿舎着 18:00 夕食 入浴・就寝
9月3日 (水)		
4日目	8:00 皇居 (赤坂御用地) 着 8:30 皇居 (赤坂御用地) 勤労奉仕	皇太子殿下よりご会釈を賜る 16:30 宿舎着 18:00 夕食 入浴・荷物整理・就寝
9月4日 (木)		
5日目 最終日	8:00 皇居 (赤坂御用地) 着 8:30 皇居 (赤坂御用地) 勤労奉仕	16:30 宿舎着 (着替) 17:30 宿舎発 18:30 東京駅出発 20:50 京都駅着、解散
9月5日 (金)		



神話紙芝居団
「かたりべまほろば」活動報告
～結成十周年を迎えて～

本年は、結成十周年という節目を迎え、さらなる飛躍を目指す年であった。

まず本年度公演として、檀原神宮林間学園後の子ども会においての公演と、春日大社所属ガールスカウトの夏の実習での公演を行った。これらの公演は毎年の恒例となっており、子ども達を対象に行われている。皆熱心に話を聞き、喜んでくれるようだ。今日ではあまり語られる機会が少なくなった神話を子ども達にも触れてもらい興味を持ってもらう機会であるので大切にしていきたい。

七月十二日桜井市慈恩寺の素盞鳴神社にて夏祭りの催し物として公演を行った。やはりお祭りには、氏子の人々を中心に人が集まるのでさらに多くの方々に見ていただけ、さらに今回の演目の一つに「ヤマトノオロチ」があったので、御祭神の神様がどのようなことをされたのかを知る機会であったのかもしれない。神社のお祭りは時期がよく重なることがあるので公演できない場合もあるかと思うが、大変よい場であるので、今後も公演を増やしていきたい。

八月十九日には、近鉄百貨店 檀原店において、「夏休みこども博IN檀原」というイベントがあり、その中の一つで紙芝居の公演があった。このイベントは、夏休みの子ども達の思い

出作りや自由研究の手助けとなるよう意図され、年々規模を拡張され、参加者も増加しているようである。公演は午後から二度行い、老若男女問わず多くの方々にご覧頂けた。依頼は昨年からで、本年度二回目になる。神社界以外の依頼で、単発で終わらず今年も続いたということもあり、大変喜ばしく、また今後の活動にも有意義になることであろう。今後も長く続けられるよう励みたい。

また、本年は冒頭にも挙げたが結成十周年ということもあり、新作「イザナギとイザナミ」がついに完成を迎えた。数年前からの計画で進められており、最初から作られているべきあいものではなく、すべて自分達で作るようにしたオリジナルな作品である。折りしも、奈良県神道青年会創立五十周年という節目の年で、その記念大会の祝宴の際に初のお披露目になった。多くの人々にご覧頂き、また先輩方の前で公演することができたこともうれしく思うところである。さらに、新作を作るよう計画中である。できるだけ多くの作品を皆様にお届けできるようにしたい。

今後の目標として、今日あまり語られる機会が少なくなった神話を、子ども達を中心ににより多くの人々に知ってもらうよう公演を増やしていきたい。そのためには、減少傾向にある団員メンバーを増やせるようにしていきたい。皆様方にはご理解頂き、何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、今回の多くの公演にお

いてお世話頂いた、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。
(往馬・大森)



神道青年全国協議会 創立六十五周年記念式典 第六十六回定例総会に参加して

『当会報誌「青垣」最優秀広報賞に表彰される』

去る平成二十六年四月二十二日、二十三日両日にかけて、明治記念館での記念式典、神社本庁での定例総会に参加させて頂きました。

記念式典に先駆けテレビでもお馴染み、のりバート・キャンベル氏（東京大学大学院教授）による記念講演「日本人には豊かな感性と美しい風土がある」を聴講。冒頭で若手神職を前に講演することに戸惑いつつも現在の日本の課題（領土問題や原発問題）に取り組み積極的に言



論を發する必要がある。また日本人の感性のひとつ「苦楽」に触れ、西洋の功利主義思想の世界観とは根本的に違う。西洋は苦痛と苦しみのない社会を目指し幸福を追求する思想であり、「苦楽」を翻訳する言葉が見当たらない。西洋、欧米にはない日本人の感性は苦と楽を相反するものではなく両極をみながら備える（準備を調える）ことである。

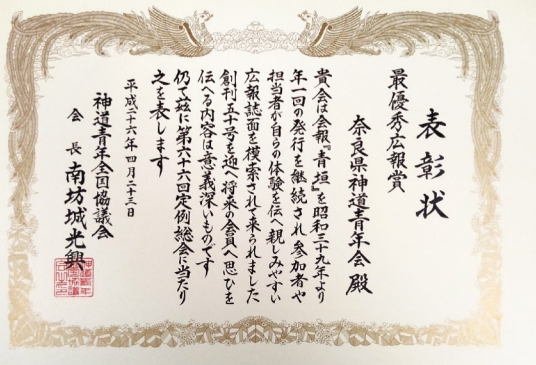
東日本大震災における放射能汚染、北方領土、尖閣諸島・竹島等の問題もこの感性を活かせば乗り切ることが出来るのではないか。神社人としてどう取り組み、行動して行くかが大切であるとのメッセージを頂いた。

引き続きの記念式典では高円宮妃殿下御台臨のもと厳粛且つ盛大に進められ、妃殿下には当會長年の活動に対し慰労と共に「神職の務めは祈りであることを忘れぬように」との御言葉を賜った。

翌日の定例総会では議事に先立ち奈良県神道青年会会報誌「青垣」が最優秀広報賞として表彰された。奈良県神道青年会が本年五十周年という節目の年であることも考慮され、先輩方の努力の積み重ね、長きに渡る活動の成果に対しての受賞であり今後も継続、発展させていかなければならないと実感した。定例総会は肅々と進行され聖寿の万歳を奉唱し滞りなく納められた。

また定例総会後には時局問題研修会が行われ鳥根県神道青年協議会が取り組んでいる竹島問題を取り巻く地域と周辺の現状を解説。東日本大震災復興支援、日本と隣国との位置関係を正確に記した「正しい日本地図」普及への取り組みの報告などを傍聴致した。来る平成二十七年八月十五日は終戦七十年の節目の年を迎える。今一度正しい歴史観、国家観を認識し日々の奉仕を通して実践していく所存である。

（大神・藤原）



神青協出向報告

今期（平成二十五・二十六年）会長指名理事として神道青年全国協議会に出向させて頂きました。

初めての事ばかりで、初めてお会いする方がほとんどでしたが、全国各地から集まってもやはり同じ青年神職、すぐに打ち解けて親睦を深め交流を広げる事ができました。

毎月開催される役員会や災害対策委員会に出席する他、私は渉外委員として創立六十五周年記念事業に関わる様々な事業にも携わって参りました。

▼平成二十五年四月二十三日 第六十五回定例総会 時局問題に関する研修会（神社本庁）

▼平成二十五年十月十日 聖寿奉祝の碑における創立六十五周年奉告祭（沖縄県波照間島）

▼平成二十六年四月二十三日 第六十六回定例総会 時局問題研修会（神社本庁）

▼平成二十六年六月十九日 北方領土の碑における創立六十五周年奉告祭並びに北方領土早期復帰祈願祭（北海道根室市）

▼平成二十六年九月九日 竹島之碑建立 起工清祓式（島根県隠岐の島町）

▼平成二十六年十月二十九日 竹島之碑竣工 日本海平安祈願祭並びに殉難者慰霊祭（島根県隠岐の島町）

平成二十六年七月九日に開催した自民党青年局との懇親会には、田野瀬太道衆議院議員にも御参加戴き、初対面乍ら親しく最後の最後まで

お付き合ひ戴いた事は、奈良県民としても大変嬉しく、この御縁にも心から感謝した次第です。



H26.9.9 竹島之碑建立 起工清祓式



H26.6.19 北方領土の碑における創立65周年奉告祭 並びに北方領土早期復帰祈願祭



H25.10.10 聖寿奉祝の碑における 創立65周年奉告祭



H26.10.29 竹島之碑竣工 日本海平安祈願祭 並びに殉難者慰霊祭

又、様々な時局問題に情報の共有を図り、問題解決に向けて発信すべく、渉外委員会時局メール担当として時局メールを配信して参りました。平成二十六年十一月二十七日に開催された神青協臨時総会に於いては、姉妹神青・宮崎県神道青年会の長友安隆君が次期会長に選出され、因らざるも私は次期監事として来期も神青協へ出向させて頂く事となりました。

奈良県神道青年会に入会してから、同志との親睦・交流の中で戴いた御縁のお蔭で様々な経験をさせて頂きました。

『何とかなるのは御縁のお蔭と運の内、何とかするのはやる気と努力と責任感。』

折角戴いた御縁をどう生かすのか、それはやはり自分自身の事であり、詰まるところ神職としての責任感なのではないでしょうか。

会員の皆さんには、殻に閉じ籠るのではなく、斯界の尖兵たる若さで一步を踏み出し、見識と交流の幅を広げ研鑽を積むべく積極的に神青協・近畿地区・そして奈良神青の諸活動に参加される事を期待しております。

（監事・持田）

7/4

第二回勉強会 天河神社・荒神社参拝研修

去る七月四日に奈良県神道青年会の勉強会に参加させていただき、平成二十三年の台風十二号により甚大な被害を受けられました天河・荒両神社様に正式参拝をさせて頂き、災害当時の様子、また、災害の復興の状況を柿坂権禰宜様、林権禰宜様から直接お聞きする機会を頂きました。

まず、驚きましたことは、三年経ちました現在でも目的地までの道のりで数多くの重機を動員し、整備を行っている様子を目にしたことでした。また、通行できる時間も決められており、まだ大規模な復興が行われているということを知り、既にある程度の復興・整備は行われていると思っていた自分の考えが間違いだと知ったことでした。

そして、今回の勉強会に参加させていただき、私自身の災害に対する意識の薄さを痛感いたしました。私の出身地であります和歌山市加太は海に面しており、近いうちに起こるとされており、南海沖大地震の際は甚大な被害が予想される地域であります。自然災害自体を止めることはできずとも、少しでも被害を少なくし、早期の復興を成



し遂げるのは、常日頃の人間の意識であると感じ、地域の防災・減災意識を改めるためには一人一人が動く必要があるということ、今回参加させて頂きましたことは私にとって大変大きな経験となりました。

(春日・井関)

7/28
29

平成二十六年 度 禊・鎮魂鍊成研修会

七月二十八日・二十九日の二日間、石上神宮に於いて平成二十六年度禊・鎮魂鍊成研修会が開催されました。本年度は近畿地区の各府県より女子神職を含め二十九名の参加がありました。

二十八日の午後三時三十分正式参拝・開講式が行われる拝殿へ参進していきました。引き続き参集殿に於いてオリエンテーションの後に禊・鎮魂の指導を受け、午後五時十五分より石上神宮の禊場へ合図とともに向かっていった。山合の小高



い所に禊場はあり、参加者の掛け声は静寂の中に木霊した。午後六時三十分、参加者は再び拝殿へ向かい、雪洞の明かりが照らす中、鎮魂・神拝行事が執り行われた。

午後八時より勉強会が行われ、桜井市文化財保護審議会委員の白井伊佐幸先生より「廣瀬神社神主唔氏考」を御教授賜った。廣瀬神社の歴史書から時代の移り変わり、またその時代の人々の思想を学ぶことができた。翌日は、境内清掃の後に再び禊・鎮魂行事を行った。その後に石上神宮宮司森正光様より講話又鎮魂形指導を受けた。

正式参拝及び閉講式は十一時より行われ、午後二時、二日間の日程が終了し、帰社した。

(榎原・青木)

8/21

神道青年全国協議会
夏期セミナーに参加して

去る平成二十六年八月二十一日、二十二日と二日間に渡り、神青協夏期セミナーが神社本庁・靖国神社に於いて全国より青年神職が参集し開催されました。

『これからの英霊顕彰』という主題で、第一講義では衆議院議員・総務大臣の新藤義孝先生による「硫黄島から考える英霊顕彰」という演題でした。戦後現在も国同士との領土問題等、数多くあります。硫黄島は未だ終戦を迎えていない。島には未だ一万一千柱以上の遺骨が収集できずに眠っています。現在も尚、遺族が自由に渡島し遺骨を収集することが大変困難であり、国の遺骨収集の予算は少しずつ増えてはいますが、直ぐに全ての遺骨収集ができずにあるのだと知りました。ご遺族の大変悔しい虚しさが伝わってき、どうか一日も早く多くの遺骨がご遺族の元へ帰られることをお祈りしています。

第二講義では大阪国際大学講師の久野潤先生より「慰霊顕彰と艦内神社」という演題でした。日本には以前多くの戦艦があり、その戦艦には必ず神棚がありお祀りされていました。ですが戦争によって殆どの戦艦が撃沈しました。全ての戦艦には日本の古式床しい名が付けられ、その名と同じ、或はご縁がある神社の御霊を艦内神社としてお祀りされていました。日本とは、神なくしては何事も成就しないと。全て大神様の御加護のもとに守護されているのだと、古から信心深く奉仕してきました。ですが日本は戦争に大敗し、多くの戦艦も失いました。戦争には敗戦しましたが、戦艦の中で、艦内神社として乗組員が皆、心を厳にして神棚に手を合わせお祈りしているお姿が目には浮

かび、戦死された方々の慰霊に心からご冥福を祈っています。

第三講義は靖国神社権宮司山口建史先生による「靖国神社の本質」という演題でした。元東京招魂社という社名で、後に明治天皇の勅命により戊辰戦争の戦死者を祀るため明治元年に創建されました。現在、靖国問題が多く取り上げられています。「お国のために殉じた先人に感謝する」という意見がある一方、大東亜戦争前の日本について侵略、自衛だったといった歴史の認識から靖国神社への参拝を問題視する意見があります。特に終戦記念日の八月十五日の参拝は戦没者を顕彰する意味合いが強まり、大きな問題となっています。

現在中国、韓国は靖国神社にA級戦犯が合祀されていることを理由に、政治家による参拝が行われる度に批判反発しています。現在、安倍総理は毎年参拝されておられます。「国家のために尊い命を捧げられた方々の御霊を慰め、その事を風化せず後世に伝える」場所として参拝を続けていただきたいと思っています。

今回のセミナーで御三名の先生方からの講義を受け、慰霊顕彰とは我々神職にとつて大変大きな課題であり、浅学ではいけないと実感致しました。益々勉強に励み、神明奉仕に怠ることなく勤しんで参ります。

(大神・新海)

9/26

宮崎県神道青年会との
姉妹神青交流会

奈良県神道青年会五十周年記念大会翌日、平成二十六年九月二十六日に宮崎県神道青年会との姉妹神青交流会が開催された。宮崎県神道青年会からは野迫会長を始め四名の参加があり、

当会からは、大月会長以下六名の参加がありました。

今回は、「奈良の古社巡り」をテーマとして、延喜式祝詞にある龍田大社、廣瀬神社を参拝し、法隆寺を見学する行程でした。当日晴天の元、JR奈良駅付近よりマイクロボスにより出発、まず生駒郡三郷町に鎮座致します風の神を主祭神とする龍田大社にて正式参拝を致しました。

龍田大社は旧官幣大社であり疫病や凶作が続いた際、神のお告げを元に崇神天皇時代に社殿





が創建され、以来疫病は退散し五穀豊穡と成つたとされています。

清々しさの中にとどこか暖かみのある風が吹く境内にて、上田安徳宮司様による社殿、祭典等の説明を拝聴し、私たち全員の心が洗われたかのような澄んだ気持ちになりました。

次に北葛城郡河合町に鎮座致します水の神を主祭神とする廣瀬神社にて正式参拝を致しました。樋口俊夫宮司様より本殿、神社の御由緒等の説明を拝聴致し、崇神天皇の御代に広瀬の河

合の里長に御神託があり、一夜で沼地が陸地に変化し橋が数多く生えた事が天皇に伝わり、この地に社殿を建て祀られるように成った事。また二月十一日には、砂を雨に見立て掛け合う「砂かけ祭り」がこの土地の雨乞の神事として古より斎行されている事を伺いました。



今回の交流事業を通じ、風の神・水の神、対の両御社を同日に参拝する貴重な経験が出来、歴史も大変古く歴代の朝廷や住民に至るまで幅広く、そして深く信仰され崇められてきた事と思いをはせ感動を覚えました。

最後に、大和の国と日向の国が姉妹神青として互いに交流の場が与えられた事に感謝し、両会の今後益々の発展を祈念申し上げ、報告と致します。

(檀原・厚見)

10/29

檀原神宮仮殿遷座祭

去る十月二十九日、檀原神宮仮殿遷座祭に神道青年会より大月会長をはじめ六名が威儀物捧持として奉仕した。国重要文化財である本殿は

明治二十三年に京都御所賢所を移築したもので桧皮屋根の葺替工事は昭和五十二年以来約四十年ぶりとなる。また神武天皇二六〇〇年大祭を平成二十八年に控えているため、此度本殿改修工事のため幣殿を仮殿として、遷座祭が執り行われた。午後一時に斎館に集合し、二時より習礼、六時四十分斎館前に列立し暗く静まり返った境内に奉鼓が鳴り響く。松明の明かりを先頭に久保田昌孝宮司以下祭員奉仕者四十名が参進する。修祓を終え遷御の儀が執り行われ、御羽車にご神体をのせ絹垣で覆い月明かりを頼りに回廊を進み本殿東側の幣殿にお移しする。

入御の儀が終わり祝詞が奏上され、奈良県神社庁より森庁長、関係者や崇敬者約五〇〇名が参列のもと祭典は滞りなく斎行された。天候に恵まれ夜は冷え込んだが、南都楽所の奏楽も素晴らしく、厳肅かつ盛大な祭典を奉仕させて頂いたことに奉仕者一同感動した。

(廣瀬・樋口)



11/19

天理教本部参拝研修



去る十一月十九日、神道青年会による勉強会が行われた。今回は他宗教の境内地の様子、また他宗教の聖職者の考えを知ろうという意図から天理市にある天理教本部にて青年会員六名が出席した。天理教本部で奉仕をしている職員の方に協力していただき、天理教本部で参拝及び境内地の案内、また場所を変え、「おやさとかた」で天理教の概要、方針、教えなどを教授頂いた。

境内地は人間の命の発祥地とされている「ぢば」がある「神殿」、天理教では「おやさま」と呼ばれている教祖中山みきの生霊が鎮まっている「教祖殿」、天理教の関係者の御霊を奉っている「祖霊殿」を順番に案内して頂いた。社殿はとてつもなく巨大で、重厚な雰囲気を感じ出していた。内部に入るとたくさん信者が拝礼をしている様子が見受けられた。また拝殿のいたるところに掃除用の雑巾が置かれており、参拝にきた信者が自主的に掃除を行っている様子には驚いた。

おやさとかたでの講義では天理教本部の職員の方々からの映像なども交えた丁寧な配慮により、よく理解できた。また、後の質疑応答の時間では今回の勉強会で一番の盛り上がりを見せた。同じ聖職者という立場もあり、奉仕に関する色々な質問が投げかけられ、また逆に質問を受けたりなど、約二時間絶えることなく続いた。天理教の奉仕の詳しいことがわかり、充実した時間となった。その後解散になり、今回の勉強会は終了となった。

同県に本部を置き、親しみのある天理教ではあるが、それでも境内地に入る際は他所様の土地に入るといった感覚があり、僅かに抵抗があった。しかし帰る時にはまた必ず来たいという気持ちになった。それは天理教の神に触れ、また教師の考えに触れたからであると確信できる。今回の勉強会で学んだことを今後の神明奉仕に役立てていきたい。

(大神・石野)

12/4

奈良県神道青年会
第五回勉強会に参加して

まず午前中は、奈良市消防局の防災センターにて、「普通救命講習Ⅰ」を受講しました。この講習では、症状別の傷病者の体勢の取らせ方、また、異物除去や止血法、骨折の応急処置などを学びました。中でも重点的に実技も含めて行ったのは、心肺蘇生法とAEDの使用方法でした。私は幸いながら、AEDが必要なほどの事態を今まで経験したことはありませんが、いざそのような事態が起こった場合には、我々が率先して動かなければいけません。特に、救急車の到着には平均八分の時間が掛かり、それまでの処置で生存確率が大きく変わることです。そのような緊急性の高い状況で、大声で協力者を呼び集め、胸骨圧迫を一分間に百回のペースで行ったり、AEDの音声に従い、これを操作するなど、これらを冷静に行わなければならないという事には、正直のところ不安を感じます。

しかし、この講習を受けたことで、もしものときには覚悟を決めて対処できるようになれたかと思いません。また、如何なるときにも多くの人がこれに対処できるように、多くの人がこのような講習を受けるべきでないかと思いません。



午後には県立美術館にて、先の御来館の折りに天皇皇后陛下もご観覧になられた、「大古事記展」を拝観しました。平日で雨天にも関わらず、多くの人人が来館し、賑わっていました。中には、現存する古事記の実物や、古事記伝の草稿本、様々な御神宝などが展示されるなど、興味を惹かれるものが多くありました。一般の方々にも、この展示を通じて、神話や神道に関心を持ってもらえれば何よりのことと思えます。

(大神・出村)

12/6

南都聖和会との親睦交流会

南都聖和会との親睦交流会へ参加させて頂いた。今回は南都聖和会側が担当で、伝統食文化を見直そうと味噌づくり体験を計画し、

大型のキッチンを所有する奈良女子大学を借用するべく打診したところ、奈良女子大学の学生こととなり、講師に奈良豊澤酒造で杜氏をしている桜井大貴氏を迎え、三団体から約三十名が参加した。

前日から原料となる大豆を水に浸し、柔らかくなるまで三時間ほど煮て灰汁をとるまでを準備して頂いており、我々は手作業で大豆を潰して米麴と混ぜ、密閉用の袋へ入れるの作業を行った、約八十キログラムの味噌を仕込むことができた。参加者はそれらを持ち帰り、ここから六カ月は各自宅で熟成を待つこととなる。神職と僧侶、また大学生との共同企画は珍しいとあって、当日は多くの報道関係者が詰めかけ、翌日の新聞紙上を賑わせた。参加した学生からも好評で、楽しかったとの声がかかれた。



その後場所を移し懇親会が執り行われ、両会で大いに親睦を深めることができた。交流会が復活して十五年が経ち、両会の関係も熟成期に入ったと言えよう。我々も趣向を凝らし、互いの研鑽と親睦のために努力せねばならないと感じた。

(会長・大月)

12/8

神宮大麻頒布活動



去る平成二十六年十二月八日、小雨が降る中ではあったが、八木地区鎮座の春日神社氏子地区にてお札配りを行った。まずは参加者一同にて春日神社に参拝の後、四班に分かれ、私が担当した地区においては、毎年の神宮大麻を心待ちにして下さる方が居られ、感謝の言葉を頂く機会は多くあった。その一方で、引越し等により頒布数が減ってきているという現状を見過ぎしてはいけない。現状維持に満足するのではなく、昨年よりも一体でも頒布数を増やすことは教化活動に繋がり、ひいては神社界を盛り上げていくことにも繋がると思う。

(榎原・伊藤)

三神青親睦野球大会



平成二十六年五月二十六日、恒例の神宮・京都・奈良三神青野球大会が当会の当番により、橿原運動公園野球場にて開催されました。

当会からは、懇親会を含め十五名の参加がありました。当日は生憎の天候で開催も危ぶまれましたが、皆さんの日頃の行いが良かったのか、天候も持ち無事に開催されました。



初戦の神宮戦三対〇では敗れましたが二戦目の京都戦は三対〇で勝ちました。三戦目の神宮対京都の一戦は〇対一で京都が勝利し、三チーム共一勝一敗で終えました。競技の後、入浴を済ませ、橿原観光ホテルにて懇親会を行いました。次年度は京都の当番で五月頃の開催予定となっております。

(橿原・高銚)

参加者

- 大神神社：木村・野々村・鈴木・橋本
- 橿原神宮：多田・高銚・上野・畑中・厚見
- 諸社：樋口・林・刀禰
- 神社庁：平田
- 懇親会のみ大神神社：大月・高山

神道青年近畿地区連絡協議会 設立二十周年記念大会野球大会

平成二十六年六月三日、滋賀県皇子山球場に於て近畿地区連絡協議会野球大会が開催され、当会からは多田副会長以下十一名の参加がありました。



前回は、悔しい三位だったので、今回は選手一同優勝を目指して臨んだ大会でした。前日の組合せ抽選での大森理事の活躍(?)の御蔭様で、一回戦シードの二回戦からの試合となりました。

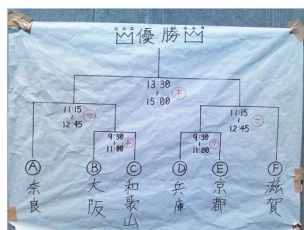
初戦は、強豪大阪神青との対戦となりました。大阪神青とは前年惜しくも敗れた相手でしたので、選手一同リベンジを誓い気合いが入っていました。試合はエースの鈴木(大神)会員の好投と、三番橋本(大神)会員、四番刀禰(石上)会員の活躍と、下位打線の奮起もあり、十一対六で見事勝利をおさめました。

決勝戦は京都神青との対戦となりました。前の試合で力を出し切ってしまったのか、選手一同動きに機敏さが感じられず、初回、二回と失点し七対〇と大きく突き放されてしまいました。しかし、橋本会員の本塁打などで、七対五まで追い上げ、逆転の望みを期待しましたが、一歩及ばず八対六で敗れ準優勝でした。

大会後、懇親会が行われ、当会からは、橋本会員が七打数四安打二本塁打の活躍で優秀選手に選ばれました。

ここ三年で準優勝、三位、準優勝と安定した成績を残せて来ておりますので、次回には、是非とも優勝を目指したいと思えます。昨今若手神職の野球離れが進んでおりますので、野球経験のある会員の皆様には、多くの参加をお願い致します。

(橿原・高銚)



参加者

- 大神神社：野々村・鈴木・橋本
- 橿原神宮：多田・高銚
- 春日大社：高橋・岡村
- 諸社：樋口・林・持田
- 神社庁：平田

奈良県神道青年会 活動報告及び計画 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

月	日	内 容	場 所	
4月	10日	神道青年近畿地区連絡協議会第十回事業委員会	シティプラザ大阪	
	15日	奈良県護国神社春季大祭助奉奉仕	奈良県護国神社	
	18日	創立五十周年実行委員会	橿原神宮	
	22日	神道青年全国協議会創立六十五周年記念大会	明治記念館	
	23日	神道青年全国協議会第六十六回定例総会	神社本庁	
	25日	第十二回理事役員会	春日大社	
	同日	会計監査	春日大社	
	28日	創立五十周年奉告祭並日本大震災・紀伊半島大水害早期復興祈願祭	奈良県神社庁	
	同日	平成二十六年度定例総会	奈良県神社庁	
	同日	同懇親会	橿原観光ホテル	
5月	16日	神道青年近畿地区連絡協議会第五回役員会	日吉大社	
	21日	神道青年近畿地区連絡協議会第十一回事業委員会	生國魂神社	
	23日	第十三回理事役員会	橿原神宮	
	26日	神宮京都奈良三神青野球大会	橿原運動公園	
	27～28日	神道青年全国協議会神宮啓蒙研修会～神宮を知り 式年遷宮を伝える研修会～	神宮	
6月	2日	神道青年近畿地区連絡協議会第六回役員会	琵琶湖ホテル	
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会平成二十五年度定例総会	琵琶湖ホテル	
	3日	神道青年近畿地区連絡協議会野球大会	皇子山総合運動公園	
	18日	創立五十周年実行委員会	橿原神宮	
	18～19日	神道青年全国協議会北方領土の碑における創立六十五周年奉告祭並びに北方領土早期復興祈願祭	根室市	
	21日	第十四回理事役員会	大神神社	
	24日	神道青年近畿地区連絡協議会第十二回事業委員会	A P 大阪駅前梅田一丁目	
	4日	第二回勉強会「天河神社・荒神社参拝研修」	天河神社・荒神社	
	5日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第五十回公演	春日大社	
	12日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第五十一回公演	桜井市 斎藤鳴神社	
7月	15日	神道青年近畿地区連絡協議会第十三回事業委員会	A P 大阪駅前梅田一丁目	
	18日	皇居勤勞奉仕青垣奉仕団第三回推進委員会	橿原神宮	
	19日	第十五回理事役員会	橿原神宮	
	22日	神道青年近畿地区連絡協議会第一回役員会	ロイヤルパインズホテル和歌山	
	28～29日	禊・鎮魂煉成研修会	石上神宮	
	28日	第三回勉強会	石上神宮	
	5日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第五十二回公演	橿原神宮	
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会第十四回事業委員会	京都ベ-コラボ	
	11日	第十六回理事役員会	春日大社	
	15日	会期検討会	橿原神宮	
8月	18日	皇居勤勞奉仕青垣奉仕団第四回推進委員会	大神神社	
	19日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第五十三回公演	近鉄百貨店 橿原店	
	21～22日	神道青年全国協議会夏期セミナー	神社本庁他	
	26～27日	神道青年全国協議会福島県警戒区域解除地区神社復興支援活動	福島県	
	9月	1～5日	皇居勤勞奉仕「青垣奉仕団」	皇居・赤坂御用地
	10日	神道青年近畿地区連絡協議会第二回役員会	ホテルグランヴィア和歌山	
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会第一回連絡会	ホテルグランヴィア和歌山	
	16日	第十七回理事役員会	大神神社	
	18日	神道青年全国協議会中央研修会事前視察	ホテルグランヴィア和歌山	
	25日	創立五十周年記念式典	ホテル日航奈良	
9月	同日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第五十三回公演	ホテル日航奈良	
	26日	姉妹神宮交流事業	龍田大社・廣瀬神社他	
	6日	神宮大麻頒布始祭参列	奈良県神社庁	
	同日	神宮大麻頒布推進委員会出席	奈良県神社庁	
	14日	皇居勤勞奉仕青垣奉仕団推進委員反省会	大神神社	
	20日	第十八回理事役員会	大神神社	
	21日	第二十回全国戦歿学徒道悼祭奉仕・参列	淡路ジャのひれアウトドアリゾート	
	22日	奈良県護国神社秋季大祭助奉奉仕	奈良県護国神社	
	27日	神道青年近畿地区連絡協議会第十五回事業委員会	大阪府神社庁	
	29日	橿原神宮仮殿遷座助奉奉仕	橿原神宮	
10月	29～30日	神道青年全国協議会竹島之碑竣工 日本海平安祈願祭並びに殉難者慰霊祭	隠岐之島	
	12日	奈良県神社庁関係者大会・外国コイン募金実施	橿原神宮養正殿・神宮会館	
	15日	天皇皇后両陛下御來県奉送迎	橿原神宮前駅周辺	
	同日	天皇皇后両陛下御來県奉送迎	橿原ロイヤルホテル周辺	
	17日	天皇皇后両陛下御來県奉送迎	近鉄奈良駅周辺	
	18日	神道青年近畿地区連絡協議会第三回役員会	ダイワロイネットホテル和歌山	
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会臨時総会・第二回連絡会	ダイワロイネットホテル和歌山	
	19日	第四回勉強会「天理教本部参拝研修」	天理教本部	
	同日	第十九回理事役員会	春日大社	
	26日	奈良県神社庁長杯親睦ゴルフ大会	ヤマトカントリークラブ	
11月	同日	神道青年近畿地区連絡協議会第十六回事業委員会	難波カルチャービル貸会議室	
	27日	神道青年全国協議会臨時総会	神社本庁	
	28日	神道青年全国協議会全国青年神職野球大会	明治神宮外苑軟式野球場	
	4日	第五回勉強会「救急救命講習受講」「大古事記観覧」	奈良市防災センター・県立美術館	
	同日	第二十回理事役員会	橿原観光ホテル	
	同日	役員忘年会	橿原観光ホテル	
	6日	南都聖和会との親睦交流会	奈良女子大学	
	平成27年	8日	神宮大麻頒布活動	橿原市八木地区
	1月	1日	会報「青垣」第五十一号刊行	
		22日	第二十一回理事役員会	春日大社
	同日	平成二十六年度臨時総会	春日大社	
	同日	新春互礼会		
2月	27日	国旗掲揚推進一・二七御堂筋パレード	大阪市	
	24日	奈良県神社庁長杯親睦スポーツ大会		
3月		第二十二回理事役員会		
		神宮大麻頒布終了祭参列	奈良県神社庁	
	5日	神道青年近畿地区連絡協議会第四回役員会	ホテルアバローム紀の国	
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会第三回連絡会・地区研修会	ホテルアバローム紀の国	
	17～18日	神道青年全国協議会中央研修会	ホテルグランピア和歌山	
	27日	神道青年近畿地区連絡協議会親睦ゴルフコンペ	京都府	

奈良県神道青年会 理事役員

役職	事務所	氏名
役員	奉務神社	
会長	大神神社	大月 智
副会長	談山神社	花房 兼輔
副会長	檀原神宮	多田 佳史
事務局長	春日大社	一木 真守
会 計	春日大社	越智 康介
理 事	春日大社	鈴木健太郎
理 事	龍田大社	稲熊 憲彦
理 事	往馬坐伊古麻都比古神社	大森 啓史
理 事	石上神宮	小嶋 靖久
理 事	大神神社	木村 克之
理 事	大神神社	高山 裕宇
理 事	八咫鳥神社	栗野 義典
理 事	檀原神宮	高銚 義嗣
理 事	檀原神宮	上野 潤
監 事	廣瀬神社	樋口 忠親
監 事	葛木坐火雷神社	持田 照久
監 事	御霊神社	神田 憲明

平成二十六年度入会

新入会員紹介

①生年月日 ②座右の銘 ③趣味 ④休日の過ごし方 ⑤ひとこと



等彌神社

尾田 交之

- ①平成元年七月二三日
- ②笑う門には福来たる
- ③映画鑑賞
- ④家族サービス
- ⑤若輩者ではございますが、皆様御指導御鞭撻宜しくお願い致します。



大神神社

石野 一信

- ①平成三年四月二六日
- ②公明正大
- ③ドライブ 映画鑑賞
- よさこい踊り
- ⑤勉強会等 積極的に参加し青年会の活動に少しでも早くお役に立てるよう、に精進して参ります。



大神神社

矢野 龍一

- ①昭和六二年十二月二五日
- ②和敬清寂
- ③茶道
- ⑤青年会の活動に積極的に参加していきたいと思えます。



檀原神宮

畑中 秀嗣

- ①平成三年十二月二六日
- ②一心不乱
- ③映画鑑賞
- ④買物
- ⑤よろしくお願ひします。



檀原神宮

坂口 智紀

- ①平成二年六月二十一日
- ②七転八起
- ③読書
- ④散歩
- ⑤よろしくお願ひします。

編集後記



会報「青垣」五十一号をお届けいたします。先ずはご寄稿、ご協力いただきました皆様、心より御礼申し上げます。

本年度は本会が発足しましてより五十年の節目の年でありましたことは、誌面にて報告をさせて頂いておられます通りです。

現在も周年記念事業は、当会ホームページの制作や周年記念誌の発行：などなど、継続して企画・制作しているものがございます。

いずれにしてもこの度の周年記念事業が、これまで先輩諸氏が残して下さいましたように、未永く後進たちの指針となることができたなら幸いです。

なお、当会報「青垣」は、神道青年全国協議会より、最優秀広報賞の表彰をいただきました。これもまた当会の歴代先輩諸氏が築き上げた努力の賜物とあらためて感謝申し上げます。

(広報部・栗野)